

## 昭和戦前期の青年層における民俗学の 受容・活用についての研究

期間：2017年4月1日～2020年3月31日

〔代表者〕丸山泰明（天理大学）

〔共同研究者〕木村裕樹（天理大学）

室井康成（民俗学・東アジア近現代史）

小林光一郎（日本常民文化研究所）

小熊 誠（日本常民文化研究所）

黛 友明（日本民俗学・民俗芸能研究）

### 青年と郷土の時代を探る

——2017年度の成果と今後の課題——

研究代表者 丸山 泰明

#### 【目的】

昭和戦前期に、日本青年館や大日本連合青年団が行っていた民俗学に関する事業に複数の民俗学者が関わっていたことは、これまでも研究されてきた。しかしながら、従来の研究では個々の人物やイベントについて部分的に取り上げられるばかりであり、総合していく観点がなかった。すなわち、なぜ日本青年館や大日本連合青年団という青年に関する組織が民俗学に関する事業を実施したのか、研究者などの知識人たちはそこで何を成そうとしたのか、地方の青年や青年団はどのように受け止めて実践したのか。これらの課題について検討することが、本共同研究の目的である。

#### 【2017年度の活動の経過および成果】

日本青年館では、収蔵されている昭和戦前期の出版物や文書資料を調査し、当時における日本青年館や大日本連合青年団、各地の青年団や青年の実像の把握に努めた。

東京都市大学図書館蔵田周忠文庫では、日本青年館や大日本連合青年団の出版物や印刷物を撮影して記録した。これらのほとんどが、全国の図書館はもとより、日本青年館でも所蔵を確認できないものである。



写真1 第1回研究会

工学院大学図書館では、竹内芳太郎による郷土舞踊と民謡の会などで上演された芸能についての調査ノートを分析し、どのような機会にどのような芸能をどのような手法で記録していたのかについて調査し資料を撮影した。

以上のように、中央の東京における組織や知識人の動きについて調査し、一定の成果をあげることができた。他方で、地方の青年や青年団、郷土史家などがどのように受け止めて活動したのかについても調査を行った。埼玉県



写真2 日本青年館の調査



写真3 東京都市大学図書館蔵田周忠文庫の調査

本庄市での調査では、住宅改善に積極的に取り組んでいた金谷村青年団について追跡調査を行った。調査の結果、生活様式の変化や養蚕業の隆盛に合わせて住まいを変えていくことが課題となっていた時代状況を捉えることができた。

また、郷土資料陳列所の収蔵資料について、出版物などを利用して、資料の種類や寄贈者・地域についての情報を目録化した。全体の中の一部ではあるものの、所蔵資料の種類や地域の傾向性、および入手方法を探るデータとなった。



写真4 工学院大学図書館竹内芳太郎コレクションの調査

### 【今後の課題】

次年度は、田澤義鋪や熊谷辰治郎、柳田國男、今和次郎、大西伍一、藤井達吉などの知識人の活動とともに、地方の青年や青年団の活動について、フィールドワークや文献調査を通じて、より具体的に明らかにすることが課題である。また、生活道具を、民具でも民藝でもなく、「郷土工芸」として捉えていた眼差しについても追求していくことにしたい。

### ■活動データ

#### 2017年度の活動

- 第1回共同研究会 2017年6月3日～4日  
日本常民文化研究所 丸山泰明・小熊誠・木村裕樹・小林光一郎・黛友明・室井康成
- 日本青年館資料調査 2017年8月22日～23日  
日本青年館 丸山泰明・小熊誠・木村裕樹・小林光一郎・黛友明・室井康成
- 今和次郎コレクション・竹内芳太郎コレクション資料等の調査 2017年9月11日～12日  
東京都立中央図書館、工学院大学図書館 丸山泰明・黛友明
- 第2回共同研究会 2017年10月28日～29日  
日本常民文化研究所 丸山泰明・木村裕樹・小林光一郎・黛友明・室井康成
- 田中喜多美関係資料の調査 2017年12月15日～17日  
雫石町立図書館、雫石町歴史民俗資料館 丸山泰明・木村裕樹・小林光一郎
- 蔵田周忠関係資料調査 2018年3月8日～9日  
東京都市大学図書館 丸山泰明・小林光一郎・黛友明・室井康成
- 埼玉県本庄市民家追跡調査 2018年3月19日～20日 丸山泰明